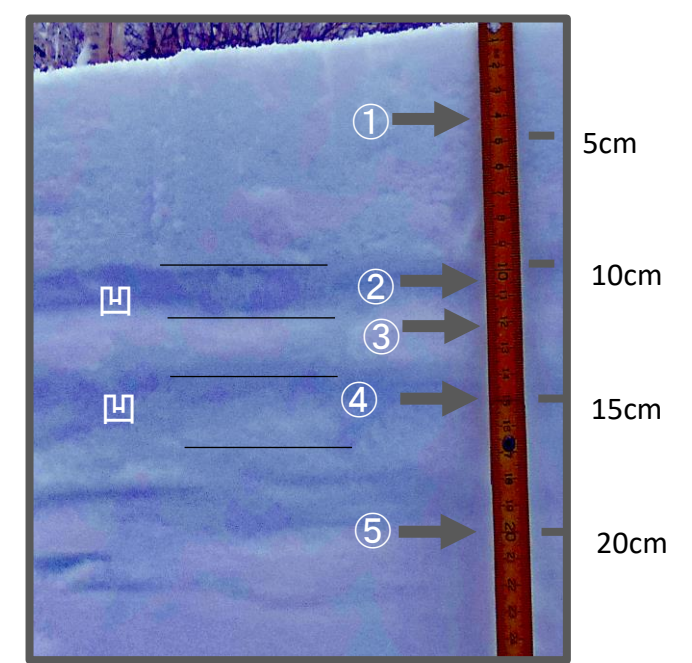


3月5日、14:30頃、ニトヌプリ(1080m)で小規模な表層雪崩が発生しスキーヤ数名が流されたという情報を得た。当事者立会いの下積雪調査を行い、雪崩の原因、特に顕著な弱層があるかを重点的に調べた。札幌では3月5日早朝、低気圧前面の雲粒なし降雪があった、弱層になる雪である。ニトヌプリでも雲粒なし降雪が降ったかを確認するのが目的である。④層が時に弱層になりやすい雪であった。この雪崩に遭遇した方の話から④層が今回の雪崩の弱層となった可能性が高い。この時の札幌の降雪は雲粒なし針状結晶がメインであった「さっぽろ積雪情報、第40号」を参照されたい。



積雪断面(コントラストを強くすると全体が青くなった)。毛先の柔らかい刷毛で雪面をこすると②層、④層が削れて凹んだ。相対的に弱い層である。

cm  
0  
9  
11  
13  
17

- ①: 雲粒多い新雪
- ②: 雲粒少ない新雪(柔らかい)
- ③: 雲粒少ない新雪(すこし固い)
- ④: 雲粒少ない新雪(一番柔らかい)
- ⑤: 雲粒多い雪が「こしまり」に

3月6日 小雪、気温-1.7℃  
観測場所、蘭越町湯の里、雪秩父温泉の近く。  
標高620m付近の西向き斜面。観測開始:10:23、終了11:30。  
観測者:秋田谷英次(雪氷ネットワーク)、尾関俊浩(北海道教育大札幌)、田中久敬(ニセコメッカ)

表層の大まかな層構造と雪質

写真約50枚、400MB